

## 2023年度の気候変動および水セキュリティへの取り組みにおいて CDPの最高評価「Aリスト」に選定

JTは、国際的な環境系NGOであるCDP<sup>※1</sup>より、気候変動と水セキュリティへの対応と戦略において優れた取り組みを行う企業として、最高評価である「Aリスト」<sup>※2</sup>に選定されました。2023年度の評価対象となった23,000社以上のうち、気候変動と水セキュリティともに「Aリスト」に選定されたのは全世界で61社、日本で22社です。当社はその1社として、気候変動で6回目(5年連続)、水セキュリティで4回目の「Aリスト」選定となります。



CLIMATE WATER

JTグループは、「自然や社会と人の暮らしはつながっており、自然や社会の持続性があってはじめて人の暮らしや企業の活動も持続的となる」と考えております。また4Sモデル<sup>※3</sup>の追求を経営理念とし、JT Group Purpose<sup>※4</sup>の具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、JT Group Materiality (重要課題)<sup>※5</sup>を策定しております。

JT Group Materialityにおいて、「自然との共生」を掲げ、自然環境に与える影響の改善に向けた取り組みを通じて、自然と人や企業の健全な関係性の保全を図ることを目指しております。

気候変動に関して、2030年までに事業活動におけるカーボンニュートラルを達成し、2050年までにバリューチェーン全体でのGHG排出量が実質ゼロとなるネットゼロの実現に向けた取り組みを実施しています。

水セキュリティに関しては、事業における水使用量の削減および、サプライチェーンにおける水リスク管理等を推進しています。

さらなる環境課題への取り組みを推進するべく、重点領域と取り組み目標について、今後見直しを予定しております。ステークホルダーの皆様から信頼される企業であり続けるためにJTグループが生み出す価値をより一層高めまいります。

#### ※1 CDP

CDP(本部:ロンドン)は企業に対し、環境や自然資源に及ぼす影響に関する情報の開示や、その影響を軽減する対策を取るよう働きかけている国際NGO。運用資産136兆米ドルを有する745以上の機関投資家を代表して世界の上場企業を対象に企業の気候変動や水資源等に関する考え方、取り組み、実績等に関する質問書を送付し、その回答をもとに評価を行い、公表している。

#### ※2 Aリスト

CDPは各企業の回答結果に基づき、リーダーシップレベル(A・A-)、マネジメントレベル(B・B-)、認識レベル(C・C-)、情報開示レベル(D・D-)の4段階に評価する。さらにリーダーシップレベルの中から、最高レベルのAリスト企業が選定される。

#### ※3 4Sモデル

JTグループの経営理念であり、お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていくという考え方。詳細については、当社ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jti.co.jp/corporate/principle/index.html>

※4 JT Group Purpose

JT グループが未来において社会から求められ、かつ、長期にわたり価値を発揮し続けていくべき領域を「心の豊かさ」と同定し、この領域を任せ、貢献し続けていきたいとの考えから、2023年2月にJT Group Purpose「心の豊かさをもっと。」を策定いたしました。内容に関しては、当社ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jti.co.jp/corporate/mission/index.html>

※5 JT Group Materiality (重要課題)

JT Group Materiality の策定プロセスと内容に関する説明については、当社ウェブサイトをご参照ください。

[https://www.jti.co.jp/sustainability/strategy/materiality\\_strategy\\_sdgs/index.html](https://www.jti.co.jp/sustainability/strategy/materiality_strategy_sdgs/index.html)